

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4093000034		
法人名	有限会社 ベストライフ		
事業所名	グループホーム ちくし永岡の里		
所在地	福岡県筑紫野市永岡1489番地1	TEL	092-922-3812
自己評価作成日	平成22年7月31日	評価結果確定日	平成 22年 9月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成22年8月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

創立3年目を迎え施設の理念である「福祉・人権・環境・教育・平和はみな平等の精神で地域社会に貢献できる施設を目指します」を基に職員全員団結して業務にあたっています。また「心こそ大切なれ」の言葉通りご利用者の身になって考え楽しいホーム作りをしています。住宅街の中に位置し大型ショッピングセンター・医療機関・公園も近くにあり買い物や散歩を楽しめる環境を有している。地域で住み続けることができるように、小規模多機能型居宅介護との連携により、よりスムーズなグループホームへの入居が出来るように支援している。地域の訪問野菜販売を受け入れ交流をはかっている。低料金につとめ身寄りの無い方等積極的に受け入れる姿勢もっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「心こそ大切なれ」というオーナーの「平等の精神」を、職員が理解し、地域住民の暮らしを支えるグループホームとして、「ちくし永岡の里」が、歴史と伝統の街に開設して3年目を迎えるようとしている。低料金で、誰でも利用出来る介護サービスは、管理者、職員の工夫で満足いくサービスを提供し、利用者、家族の評価は、高いものがある。運営推進会議を地区の公民館で、小規模多機能型ホームと協働で開催し、地域の役員にたくさん参加してもらい、情報交換や、交流の場として、有意義な会議になっている。管理者、職員は、利用者の日々の心身の状態を、細かいところまで把握し、家事や菜園作り、体操、散歩等の中で生活リハビリを取り入れ、利用者一人ひとりの希望を聴き、生きがいのある、日々の暮らしが出来る支援をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際に唱和し職員は意識づけしている。	管理者と職員は、理念の意義を理解し、理念に基づいたサービスを実践している。また、「心こそ大切なれ」という事業所のモットーを大切に、利用者との心のふれあいを大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎日散歩に出かけいる為近隣の方とも顔馴染みになっている。資源回収に協力している。	真夏でも帽子を被り水分補給をしながらの散歩を日課とし、地域の人と顔なじみの関係である。地区の夏祭り、敬老会、資源回収など活発な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的にいろいろな相談を頂くので、お話を伺いながら一緒に手立てを考えている。地域の方々と共に高齢者のお役に立てる取り組みは行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた貴重な意見を参考に実践している。	会議には地域の役員やホーム職員が多数出席し、交流を図りながら活発な意見交換を行い、ホーム運営に反映させる取り組みをしている。現在、会議がマンネリ化しないための企画を検討中である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供にかかわる事業協議や日常的に起こった事故や困難事例の相談等を必ず連絡をとるよう努めている。	運営推進会議に地域包括センター職員の参加がある。また、市町村担当窓口にも、問い合わせや相談に行くなど、日頃から情報の共有に努めている。	今後は、市町村に相談に行くだけでなく、介護の知識と経験を活かし、地域の介護相談事業を行ったり、独居の高齢者への声かけなど、市町村と連携しながら地域への貢献に向けて取り組んでいくことが望まれる。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口は危険防止の為夜間のみ施錠行っているが常にコミュニケーションをとり気分転換を図り日中は施錠しない。	身体拘束、身体拘束防止、虐待防止のマニュアルをもとに職員会議で学習し、全員で共有し実践している。また、鍵をかけることの弊害を職員全員が理解し、日中は施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の概略についての学習会を実施。周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会にて説明行った。現在1名の方が後見制度・1名の方が自立支援制度を利用されている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する内部勉強会を行い、管理者や職員は制度を理解し、必要な時に支援できる体制作りに取り組んでいる。新しい職員の採用があったので、今月周知のため勉強会を行う予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い理解して頂いている。また面会時にもご家族より疑問点等伺い説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡にてご家族より苦情や要望を伺っている。またご意見を玄関に設けご家族の要望を取り入れている。	玄関に意見箱を設置しているがなかなか家族の意見が出てこない。そのため、家族来訪時、職員が意見や要望を聴く時間をとり家族の相談にのっている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝夜勤者より申し送りを行いスタッフより管理者へ要望を伝えている。又月1回の合同ミーティングでもスタッフの意見を聞いている。	管理者と職員が強い信頼関係で結ばれているため、職員の意見が出やすく、出された意見は検討しホームの運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に勤務状態を把握し一人一人生き生きと勤務出切るよう努力している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・学歴・経験・年齢等関係なく採用している。採用後もその方の能力に合わせて勤務体制をとっている。	職員の採用にあたっては、年齢、性別などの制限はない。事業所で働く職員については、ロッカー、休憩場所、休憩時間を確保するとともに、一人ひとりが能力を発揮し生き生きと働けるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	学習会は開いていないが運営理念をもとに常日頃スタッフには話す機会を設けている。	内部研修を実施し、利用者の人権やプライバシーに関する研修で職員全員が人権に対する考え方を共有し、人権教育啓発活動に取り組んでいる。	今後は、研修の記録の整備を期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成の為に計画書は作っていない。研修に関しては出来る限り参加できる体制を整えている。職場内でのトレーニングでは日々のフロア主任や管理者の指導と、ミーティングの中で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特にない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用までの期間の時間的差異によって十分な事前の聞き取りなどの準備が出来る場合とそうでない場合があるが時間が取れない場合でも入居後コミュニケーションをとりご本人の意向に沿うよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用までに十分な事前聞き取りを行っているが時間が取れない場合はコミュニケーションをとりながら意向に沿うよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望や状況を見極め他の選択肢も含めよりよいサービス紹介に努めている。。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者としての自負を持ちつつ御利用者的人生の先輩と敬い職員と一緒に家事活動等の生活支援を行っている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際近況報告を行っている。遠方のご家族へは不安だけをあたえないようホームでの様子をお伝えしご家族に出来ることはお願いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会に頼ることが多くホームとしての取り組みが出来てない。	家族が面会に来られたり、近所の方がふらつと立ち寄りやすい雰囲気作りを心がけている。また、お孫さんの結婚式、ご主人のお葬式に同行支援するなど、利用者、家族にとってかけがえのない事への思いに添えるよう、最大限の努力をしている。	利用者を取り巻く人間関係を把握し、日常的に地域との接点を持ちながら、関係継続のための積極的な支援が望まれる。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前・午後と食事の支度や、折り紙などの手作業と一緒にしていただくなど共同作業を数多く取り入れている。御利用者同士トラブルがあった場合にはスタッフが間に入り雰囲気を変えるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良にて入院され利用を中止された際ご家族には他のサービス紹介などの相談などをお受けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用前の聞き取りを中心にご本人に合わせた取り組みを行っている。家事活動をされる方・穏やかに過ごしたい方それぞれに合わせて取り組んでいる。	利用前に、本人、家族から希望を聴き取り、また、毎日の暮らしの中での言葉、表情などから、一人ひとりの思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にご家族・ご本人や紹介機関等からの情報提供を頂き情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングなどの会議の中で情報を共有しながら、確認しあっている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を基本に日々の職員の気づきやご家族との懇談の中の情報を元に計画している。	担当者会議には家族も出席し、職員全員で意見交換やモニタリングを重ね、気づきや意見、意向を反映した本人本位の介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌に気づきや様子を書き込み職員が常に把握できるようにしケアプランに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活リハビリ等視点を持ち身体機能維持の為に散歩・施設内歩行や家事活動など実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の訪問野菜屋で買い物を楽しんで頂いているが十分な活動はできていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診ならびに往診の医療機関と連携をとっている。ご家族の希望医があれば受診をお願いしている。	ホーム提携医への受診を定期的に行い、訪問歯科を利用し、安心、適切な医療が受けられる体制である。利用前のかかりつけ医受診に対しては家族と協力しながら支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医と社内の看護師と連携をとっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に病院を訪れ状況を聞き医師と相談しADL低下や認知症の進行等協議しながら退院の時期を決めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在はないが必要に応じて今後ご家族・医師と相談をして方針を決めていく。	重度化した場合や終末期に向けて、事業所としての対応について、本人、家族の希望を聴きながら話し合いを重ね、方針を共有し指針を作成することを検討中である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置はしているが訓練は行っていない。事故発生時は看護師との連携をとっている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの周知をし防火訓練を実施している。地域の協力体制もお願いしているが具体的には出来ていない。	消防署の協力を得ながらの避難訓練を実施している。	今後は、住宅地に立地していることから特に地域の協力を得て夜間を想定した避難訓練の実施と、災害に備えて非常食、飲料水、毛布の備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームのモットーである「心こそ大切なれ」を職員一人一人心がけ対応している。	「心こそ大切なれ」のホームのモットーを心にとめ、利用者一人ひとりの誇りを大切に、言葉かけや対応に配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者一人ひとりと会話の時間を作ったり、職員の会話のスピードや言葉使いに気をつけて一人一人に対応していくよう徹底している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人の意思決定を大切にしているが、ややもすると職員側の都合だけが優先される事例もあるので、職員間の指摘や提案などで利用者本位の確立をめざしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の着替えはもちろんお化粧などの要望も出来る限りご本人の要望にこたえるようにしている。訪問理髪にて希望される方のみ整髪している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや食器拭きは好まれる方に積極的にして頂いている。	野菜を切ったり、味見など、食事の準備、おやつ作りを利用者と職員が一緒に行い、食事への関心が高まるよう支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の嗜好などにてできるだけお応えできるように、要望の把握とともに個々の状況に応じて水分管理表作成して確認している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の声かけで実施出来ている。うまく出来ないご利用者には職員が介助している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツ使用してトイレの習慣をつけている。紙パンツ使用の方で失敗による自信喪失などにも配慮して必要な方には時間を決めてトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの習慣や排泄のパターンを把握し、昼間は布パンツの使用でトイレ誘導をこまめに行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄シートを活用し排便困難なご利用者へは水分調整や食事の配慮、運動などを実施している。	
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが発熱や病気の都合で入浴出来ない時は清拭を実施している。ご本人のご希望に応じて、予定外の入浴もやっている。	基本的には一日おきの入浴だが、利用者の希望があれば毎日でも対応している。拒否の方に対しては担当を代えるなど、入っていたできるよう工夫している。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝やお昼寝はご本人のリズムに合わせている。起床は朝食の7時を目安にしているが起きたくない・食べたくないご利用者へはその方のペースに合わせている。	
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱を準備し処方箋を元に服薬確認を常に行っている。薬が変更になった場合は申し送りにて職員一人一人に伝達している。	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割家事手伝いやレクリエーション等行っている。	
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望・機能維持・季節感を味わって頂く為散歩や買い物、外出の機会を設けている。尚、遠出の際にはご家族の方の参加して頂いている。	ホームの近くには花が綺麗に咲いている公園が二つあり、毎日のように散歩に出かけている。また、ドラッグストアやショッピングセンターなどへの買物も利用者の大きな楽しみとなっている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の管理は「お預かり金」として一括しホームが管理し、お買い物など支出の際に適当な額をお渡ししている。自分で管理したい方には、ご家族の了解の下、財布内に小銭を入れ持っていただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により実施している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や壁紙を貼り季節感を味わっている。	毎月、季節の花などをテーマにした貼り絵の作品を利用者と職員と一緒に作成し、ホームの壁面を飾っている。また、日当たりの良いバルコニーには布団が干され家庭的な雰囲気である。茄子、ゴーヤ、オクラの植えられた菜園は季節感があり、気分転換にもなる共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限りご自宅で使っていたものを持ち込んでいただくようお願いしている。ご家族が施設に来訪された際には写真をとるなどして、居室に掲示させていただいている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれている物・愛着のある物等は持ち込んでいただくようお願いしている。ご家族がホームに訪問された際には写真を撮るなどして居室に掲示させていただいている。	家族の協力を得ながら、利用者にはマッサージ機、仏壇など、それぞれ馴染みのものを持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活活動の基本である移動が容易になるようバリアフリーは元より危険と思われる箇所や物などに常に施設内の点検を行っている。		